1998 12 20 No. 51

主日礼拝順序

（待降節第４主日・クリスマス礼拝）

12月20日　午前10：15〜11：45

司会　藤村　洋執事

前奏		瀬尾千絵姉
招詞		司会者
頌栄	５３９（起立）	一同
主の祈		一同
交読文	４４（ルカ１）	一同
讃美歌	９８（起立）	一同
聖書	マタイ２：１〜６（共新２頁／初新２頁） ローマ１：２〜４（共新273頁／初新317頁）	
牧会祈祷		津田伝道師
合唱	世の罪を負いて屠られたる小羊に　アーメン	聖歌隊
説教	「はるかな道程を」	岩井牧師
讃美歌	21−271（起立）	一同
洗礼式・転入会式	司式	岩井牧師
教会の主意・教会員の誓約		藤村洋執事
聖餐式	司式	岩井牧師
（聖餐感謝の祈り）		奥田　修執事
讃美歌	１１２（起立）	
献金	５４７（起立）	一同
頌栄	５４２（起立）	一同
祝祷		岩井牧師
応唱		聖歌隊
報告		藤村　洋執事
後奏		瀬尾千絵姉

はるかなる道程を

その時、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て

マタイ２：１

今年の聖誕劇では、ゆり組の４人の子たちが東の国の博士たちに扮して、しずしずと宝物を捧げ持って礼拝堂の奥から行進した。「われらは来りぬ、はるけき国より、星に導かれ、野山越えて」と第二編52番をお母さん達が歌う。私はこの場面に感動を覚えた。そこには深奥なしるしがある。私たちが信仰に至る、はるかなる道程が象徴されている。「野山越えて」に信仰者の物語を想う。日本の婦人解放運動の旗手矢嶋楫子は46才で洗礼を受けた。知友盲人牧師宵木優氏は人生途上絶望からの転生を生きている。今日この礼拝で受洗されるM姉、N兄の人生の物語も同じく心に残る。

そもそもマタイ２章の占星術の学者の記事は、この福音書の明確な構図の中への位置づけを欠かせない物語である。ユダヤ人の王ヘロデと、新しい「王」イエスとは真向から衝突する。イエスを拒否するエルサレムの支配層住民と異国の占星術学者とは、イエスをめぐって往き違う。マタイ教会の異邦人伝道のモティーフが鮮明である。レンブラントのイエス降誕の絵のように　ほのかな光の中で、闇路を旅して来た学者たちはイエスと出会う。

しかし、私たちは、ここでもう一方のはるけき道程に心を注がねばならない。幼な子に象徴される「救い」も、はじめからそこに存在した訳ではない。はるけき道程をたどっている。ローマ３：21はそのことを「律法と預言者によって立証されて」と語る。出エジプトの物語、アモス、イザヤ、エレミヤに示された預言者たちの物語を私たちは思い起す。さらに十字架の死に至るイエスの生涯、「地上を歩む神」に想いをはせる。私たちの信仰の歩みの物語の見えざる前提として神の物語がある。信仰は、何かを理解し、何か安心に至る観念を所有することではない。聖書そのものが、神の歩まれた歴史を示しているとすれば、私たちが、自分の固有な人生をその歴史の光の中で、見直していくことであると思う。

八十川昌代氏（広島主城教会牧師）から近著『彼方からの光を受けて』（1998、キリスト新聞社）を戴いた。ガンによる転移性骨腫瘍の中、1997年クリスマスに行った説教が収められている。「骨のガンで死ぬことはありません」とたまたま記した同病の友人の手紙の一行が思わぬ励みとなったこと、それは神がその一行を用いられたからだと証している。そこには人生を、神の光の中においた平静な旅路が垣間見られる。

（12月20日説教　岩井記）